

氏名： 佐治 由美子
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
職名： 講師
学位： 修士 (家政学、お茶の水女子大学、1982)
専門分野： 保育学
E-mail： saji.yumiko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

保育／実践研究／省察／身体／保育者養成

Hoiku / Study in the Field of Childcare / Reflection / Body as Plasticity / Students Nurturing for Childcare

◆主要業績

- ・透明なキャンバスに描く？3歳未満児の対話的保育の実践報告(1)、中澤智子・佐治由美子、日本保育学会第62回大会発表論文集、29、p643
- ・『ガラス絵』から見えるもの、佐治由美子、幼児の教育 18-4 お茶の水女子大学「幼・保・大」連携研究の試み(28)、フレーベル館、29、pp5-59
- ・さまざまな現場にある保育者の共同省察、佐治由美子・猪本こを、幼児の教育 18-12 お茶の水女子大学「幼・保・大」連携研究の試み(36)、フレーベル館、29、pp54-59
- ・保育者養成をめぐるメール書簡(1)? 省察(リフレクション)?、上垣内伸子・佐治由美子、幼児の教育 18-9 お茶の水女子大学「幼・保・大」連携研究の試み(33)、フレーベル館、29、pp58-63
- ・保育者養成をめぐるメール書簡(2)? 実習体験の語り合いから生まれる喜び?、上垣内伸子・佐治由美子、幼児の教育 18-1 お茶の水女子大学「幼・保・大」連携研究の試み(34)、フレーベル館、29、pp58-63

◆研究内容 / Research Pursuits

2009年度は、「幼保の発達を見通したカリキュラム開発(幼保プロジェクト)」の最終年度であった(特別研究経費研究として4カ年計画)。

- ・大学と附属幼稚園・附属保育所(いずみナーサリー)の協働によるカリキュラム開発として、学部の専門科目「保育臨床実習」の定着を図るため、現場との連携を密に行った。
- ・学部の専門科目「発達臨床特別実習?(インターンシップ)」を担当し、外部にある実習の場に足を運んで振り返りを共同で行いつつ、大学では学生と複数名いる担当教員との振り返りを丁寧に行った。
- ・28年度にスタートした附属校園の連携研究に大学から関与する立場として、29年度も「環境グループ」のオブザーバーの役を務めた。年度末に発行された「お茶の水女子大学人間発達教育研究センター子ども発達教育研究部門 研究集録第2号」に分担執筆した。

◆教育内容 / Educational Pursuits

・「保育臨床実習」

附属幼稚園・附属いずみナーサリー、その他外部の公立・私立の幼稚園・保育所の協力を得て、子どもの生活をつぶさに観察し、話し合い、記録するサイクルの中で子ども理解・保育理解を深めることを目指している。子どもに出会うだけでなく、現場の保育者との話し合いも企画し、保育を実地に近いところで学ぶ機会としている。

・「発達臨床特別実習?(インターンシップ)」

附属幼稚園・附属いずみナーサリー・愛育養護学校、その他文京区公立幼稚園の現場に実習生として通年の受け入れをお願いし、大学では学生の振り返りを共有している。29年度は、学生の実習先に教員が出かけて現場での振り返りに参加することにより学生の学びを支援すること、また、大学での複数の担当教員と学生との振り返りの中で学生の実践による学びと文献との結びつきを促すことの二つに、教育を焦点化する一年であった。

◆メッセージ

お茶の水女子大学には、日本で最古の幼稚園である附属幼稚園と国立大学の附属保育所として最初に誕生したいずみナーサリーが同じ敷地内にあります。大学キャンパス内で日常的に子どもと行き交うことがあるだけでなく、学生が希望すれば、保育を専門としていなくともボランティアとして保育体験をする場が開かれているという意味において、貴重な学びができる大学だといえましょう。子どもに近い環境に身を置きながら子どもという存在についてじっくり考えてみる、そんな学びが保障されています。子どもの存在を通して子どもという思想を学ぶことのできるカリキュラムが用意されています。子どもに関心のある方は、是非一緒に学びましょう。卒業後先生になってもならなくても、子どもと共生する社会の実現に力を発揮される方がこのキャンパスから巣立っていかれることを期待しています。